

研究主題

「生きる力」を育むための、生活科の資質・能力を確実に育成する指導の工夫
3年次 見方・考え方を生かした学習活動の工夫

1. 主題の意味

学習指導要領では、子どもたちの「生きる力」を育むために、

- ・「知識及び技能」の習得と「思考力、判断力、表現力等」の育成のバランスを重視し、知識の理解の質を高め、確かな学力を育成すること
- ・育成を目指す資質・能力の明確化を図ること
- ・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進すること

が示されている。また、育成を目指す資質・能力が、「知識及び技能の基礎」「思考力、判断力、表現力等の基礎」「学びに向かう力、人間性等」の三つに整理され、教師による確かな理解と、子どもへの確実な定着が求められている。それらは、下の表1のような要素と内容から構成されている。

| | |
|-----------------|---|
| 知識及び技能の基礎 | 知識の基礎 ○自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよき、それらの関わり等に気付く ・集団生活になじみ、集団における自分の存在に気付く ・自分のよきや得意としていること、また興味・関心をもっていることなどに気付く ・自分の心身の成長に気付く |
| | 技能の基礎 ○生活上必要な習慣を身に付ける ・健康や安全に関わること、みんなで生活するためのきまりに関わること、言葉遣いや身体の振る舞いにかかわることなど ○生活上必要な技能を身に付ける ・手や体を使うこと、様々な道具を使うことなど |
| 思考力、判断力、表現力等の基礎 | ○身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉える ・身近な人々、社会及び自然などの対象を、自分とどのような関係があるのかを意識しながら、対象のもつ特徴や価値を見いだすこと ○自分自身や自分の生活について考え、表現する ・自分自身や自分の生活について、見付ける、比べる、たとえるなどの学習活動により、分析的に考えること ・試す、見通す、工夫するなどの学習活動により、創造的に考えること ・気付いたことや考えたこと、楽しかったことなどについて、言葉、絵、動作、劇化などの多様な方法によって、他者と伝え合ったり、振り返ったりすること |
| 学びに向かう力、人間性等 | ○身近な人々、社会及び自然に自ら働きかける ・思いや願いに基づいて、身近な人々、社会及び自然に、自分から接近し何らかの行為を行うこと ○意欲や自信をもって学んだり生活を豊かにしたりしようとする態度を養う ・学校や家庭、地域において意欲や自信をもって学んだり生活を豊かにしたりすることが繰り返されることによって、それが安定的な態度として養われるようにすること |

【表1 生活科で育成を目指す資質・能力】

2. 昨年までの研究から

本校では、過去のコアスクール事業や学びチャレンジリーディングスクール事業において「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善を通して『「生きる力」を育むための生活科の資質・能力の育成法』について研究し、一定の成果を上げてきた。昨年度の研究では、学習展開の工夫、及び友達と関わり伝える表現活動の工夫を具体的な手立てとすることで、対象を自分との関わりで捉えるとともに、自分自身や自分の生活について考え、よりよく表現できる子どもを育て、副主題の「思考力、判断力、表現力等の基礎を育む指導法の工夫」の実現に迫った。その中で、手立ての有効性を確認することができたが、子ども一人一人の見方・考え方の想定が十分ではなく、どの子どもにも手立てが有効に機能したとは言えない課題も見られた。

そこで、3年次となる本年度は、昨年度までの研究を生かし、「思考力、判断力、表現力」の基礎を確かなもの

にするためのより深い学びの実現を目指し、昨年度の手立てに加え、「見方・考え方を生かした学習活動の工夫」に焦点をあてた研究を行っていくこととした。

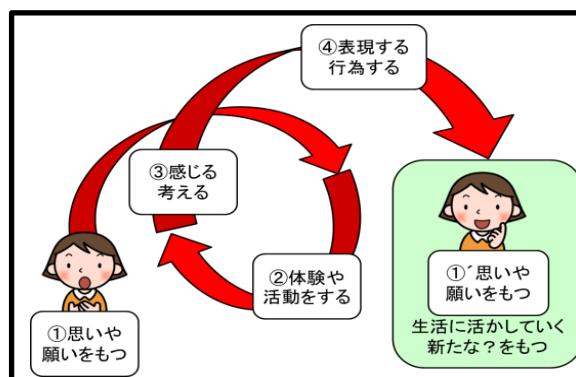
本年度目指す子どもの姿は次の3つで捉えている。

- 具体的な活動や体験より思いや願いを強くもち、自分との関わりを深める子ども
- 自分と社会及び自然などの対象を自分と関連付け、意識し働きかけることができる子ども
- 自分自身や考えたことを他者と伝え合ったり、振り返ったりすることができる子ども

3. 「見方・考え方を生かした学習活動の工夫」とは

生活科における「見方」とは、「自分との関りにおいて対象を捉える」という対象の捉え方であり、「考え方」とは、「自分の思いや願いの実現」に向けて物事を判断したり、考えたりする思考の方向性である。

学習活動を設定する際は、図1のような学習のプロセスを各単元の学習の中で繰り返しながら、思考力、判断力、表現力の基礎を育んでいく。子どもは、表現をする際、相手意識や目的意識に基づいて表現内容や表現方法を考えることになる。また、表現した結果から、考え直したり新たな思いや願いが生まれたりして、前の段階に戻ったり次の段階へ進んだりする。このように思考や表現が一体的に行われたり、繰り返されたりすることができるような学習展開を設定する。具体的には以下のような手立てを行う。



【図1 生活科の学習プロセス】

(1) 子どもが自ら思いや願いをもって動き出す対象との出会いの場の設定

資質・能力を確実に育成する生活科の望ましい学習をスタートするには、教師の指示からではなく、子どもが切実感のある思いや願いを持つことから始まる。そのために、子どもと対象との出会いの場を意図的に設定し、そこで子どもが抱いた思いや願いをもとに活動への意欲を喚起していくことが肝要である。意図的な場とは次のようなものが考えられる。※表2参照

- ・子どもにとって既知と未知が混在している対象との出会いの場
- ・子どもにとって意外性のある対象との出会いの場
- ・子どもにとって自分の関わりの価値を自覚できる対象との出会いの場

| 出合わせる対象の視点 | 子どもが抱く思いの例 | 焦点化された思いや願い例 |
|-------------------|---|--------------------------------------|
| 既知と未知が混在する対象 | ○これは・・の苗なんだね。そういえば、おばあちゃんが庭で育てていた・・を食べたことがあるよ。自分も育ててみたいけど、どうすればできるかな。 | ○自分たちの手でいろいろな野菜を育てて食べてみたいな。 |
| 意外性のある対象 | ○糸と紙コップだけで、Aくんの声がすぐ聞こえてびっくりしたよ。おもしろいね。 | ○身近なものを工夫すれば楽しいおもちゃがもっとつくれそう。 |
| 自分の関わりの価値を自覚できる対象 | ○お母さんからお手紙をもらったよ。ぼくがした・・のお手伝いがすごくうれしかったみたいでぼくもうれしくなったよ。 | ○お手伝いをもっと増やしたら、おうちの人がもっと助かって喜んでくれそう。 |

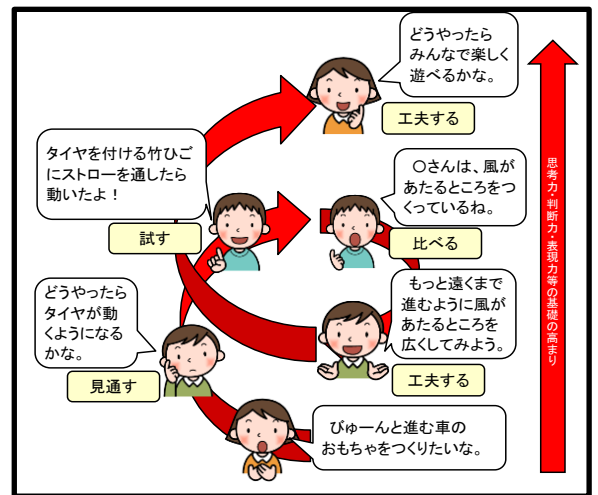
【表2 対象との出会いの場の設定】

(2) 見方・考え方を生かす思考活動の工夫

生活科では、図4のように、子どもが自分自身や自分の生活について「見つける・比べる・たとえる」など分析的に考えたり、「試す・見通す・工夫する」など創造的に考えたりする学習活動を設定する。

そうして考え、表現する活動を友達と一緒に行うことで、一人一人が育む思考力、判断力、表現力が共有され、これらをより一層高めることにつながると考えられる。

子どもが自分との関わりによって対象を深く捉えたり、思いや願いを実現しようとする有効な考え(図2)をもったりするために、次の2つの思考活動を工夫して構成する。



【図2 考える子どもの具体例】

① 比較、分類、関連付け、視点移動などの分析思考を働かせる活動の工夫

自分との関わりによって対象を深く捉えるためには、見つける・比べる・立場を変える・選ぶ・見分けるなどの学習活動が必要である。そのために、資料となる図鑑などを常に見える位置に設置したり、意図的にグループ編成を行った小グループで比べ合いの活動を設定したりする。小グループでの活動の際には、ワークシートやホワイトボード、写真などの ICT を活用することで思考を可視化・操作化しながら比べることができるようにする。

② 工夫、試行、見通し、予測などの創造的思考を働かせる活動の工夫

分析思考を働かせる活動を通して、子どもはさらに自分の思いや願いを実現しようと考えられる。そこで、特徴を生かす、試行錯誤する、計画を立てる、生活に生かすなどの学習活動を取り入れる。

材料コーナーやお試しコーナーなどの場を設置し、特徴を生かす活動を充実させたり、試行錯誤したりできるようにする。また、見通しや計画を立てることができるようにこれまでの活動の流れや子どもたちの考えの変化を写真や絵などで掲示するようにする。

(3) 見方・考え方を生かす教師の支援の工夫

子どもの見方・考え方を生かすためには、上記のような試行錯誤や対象に繰り返し関わる体験活動を行うと同時に教師の働きかけや見取りが重要である。

子ども一人一人の気付きを深め、個別最適な指導に生かすために、支援計画表を作成する。教師は、あらかじめ子どもの考えやつまづきを予想し、具体的な声かけや新たな気付きにつながるきっかけ作りをすることに加え、その子どもを誰とつながかなどの働きかけを計画する。その際、つまづいている児童の実態と、それらの解決につながりそうな、友達のよい考えに着目し、書く内容を絞り、焦点化した支援計画表(表3)を工夫していく。

【表3 支援計画表】

| 生活科「たのしいあきいっぱい」支援計画表 | | 1年2組 | | |
|--|----------------------------------|---|---|---|
| ◎他の子どもと繋げる ○見守りながら支援 △支援が必要 | | 黒板 | 振り返りカード | |
| まといれ◎ | けん玉◎ | けん玉◎ | おみせやさん | やじろべえ・あわせえ |
| ◎まどを増やしたい。 ◎カップを付ける(大・小)。 ◎大きい輪を付ける。 △線ボールを使って大きじしたい。 △材料コーナーへ連れて行き、輪を選ぶように助言する。 | 坂口 ○ ◎中室 ○ 古田 ○ | ◎けんだまに点数をつけたい。 ◎まつまうりの大きさをかえる。 ◎あきを付ける。 中村 ○ 中山 ○ | ◎種類をこしたい。 ◎はっぱをつかいたい。 △プレスシート、帽子をつくる。 △あきを増やしたい。 内門 ○ | ◎やじろべえに顔を書く。 ◎もつやじろべえを増やす。 小川 ○ △お休みが多く、作業が遅れている。 △富谷 ○ 附田 ○ |
| まといれ◎ まどあて | マラカス◎ | マラカス◎ | マラカス◎ | めいろ さかなつり どんぐりごま |
| | ◎遊ぶ数を増やしたい。 ◎小丸・どんぐりや大きい・どんぐり | | ◎楽器を増やす。 ◎(たいてい、ちゅきん、鈴) | 田中 ○ |